

# アジア化学工業週報

October 22 ~ 26, 2018

Produced by *The Chemical Daily*

編集・製作 化学工業日報社東京本社

## オー・ジー 中国で電子材料事業強化

オー・ジーは中国で電子材料ビジネスを強化する。華南地区で需要が高まる電子材料分野で商機を捉える考えで、中国現地法人の分公司として開設した広州の拠点を活用し、エポキシ樹脂などの営業活動を拡大。危険物についても、現地法人の本体やグループ企業とも連携し取り扱いを可能としている。これらの強みを活用、現地の日系顧客や現地企業へ販路を拡大することによって、同地域での事業成長を加速していく。

## 帝人 タイヤコード タイで本格生産

帝人はタイヤコード事業の展開に拍車をかける。2016年にタイ工場を立ち上げ、タイヤメーカーにおける承認活動を行っていたが一部品種が正式採用され、今年に入り量産を開始した。残る品種についても近く正式採用を見込んでおり、今年から来年初頭にかけて量産を開始できる見通し。日欧米系の高性能タイヤにおける拡販、および高級車市場が拡大している中国などでの新規顧客獲得にも努め、早期に稼働率を高めていく。19年3月期には年産1万6000トンのフル稼働を目指す。

## 積水化学 上海に電材評価センター

積水化学工業の高機能プラスチックカンパニーは上海に電子材料の評価を行う技術サービスセンター「エレクトロニクス材料技術サービスセンター」を新設した。上海周辺に集積しているディスプレイメーカーや半導体メーカー、スマートフォンなどのセットメーカーからの評価依頼に迅速に対応するとともに、グループが有する多種多様なエレクトロニクス分野の製品・技術を提案することで売り上げ拡大につなげるのが狙い。また同センターの敷地にはグループが運営する自動車向け電装製品のショールームもあり、ここの相乗効果によりカーエレクトロニクス領域の開拓も進めていく。

## JIMテクノ 香港のシールド掘進機メーカーを子会社化

IHIグループのJIMテクノロジー（川崎市）は、香港のシールド掘進機メーカー、テラテック社の株式51%を取得する。連結子会社化することで国内の10倍超の約4000億円といわれる海外市場で受注拡大を狙う。シールド掘進機の海外市場は高度成長が予測される。なかでも中国、インド、東南アジア諸国、中近東、トルコなどでインフラ整備や地下鉄による需要増が期待される。



## 安藤パラケミー 東南ア開拓本格化

安藤パラケミーは、東南アジア市場の本格展開に乗り出す。海外拠点としてタイ・バンコクに現地法人を設立。11月から活動を本格化し、タイに進出している日系企業に溶剤やワックス類を中心とした商材を拡販する。タイ法人は東南アジア地域の中核拠点としても位置付け、中国拠点と連携しながら中国からタイに向けた輸出ビジネスも進めるほか、タイ周辺諸国の市場開拓にもつなげる。これらによって同社グループのシナジーをさらに発揮し東南アジア展開に弾みをつける。

## 蘭ワークス 中国にLiB工場と研究開発拠点 18・5億ドル投資

オランダの電池メーカーのワークスは18億5000万ドル（約2072億円）を投じ、中国の長江デルタにリチウムイオン2次電池（LiB）の工場と研究開発拠点を設立する。2021年の操業開始を見込み、LiBの年産能力は8ギガワット/時で電気自動車（EV）16万台分の電池供給が可能となる。同社の中国工場は今回で2拠点目。

## 三井化学 印でPPコンパウンド増産

三井化学は自動車生産が伸びているインドでポリプロピレン（PP）コンパウンド増産体制を構築する方針。北部のラジャスタン州にある既存工場での増強か、西部など自動車生産が拡大している新立地に第2拠点を設けるか、早ければ来年春までに結論を出す。PPコンパウンドは自動車のバンパーやインパネなどに使用され、軽量化に資する材料として需要が伸びている。インドは需要の伸びが著しいが、競争も激しい。世界トップの同社では一早く増産体制を整えることで、伸びる需要を確実に取り込んでいく。

## パナソニックー中国・海底撈 レストランもスマートに 裏方を自動化

パナソニックは中国最大の火鍋チェーン、海底撈インターナショナルホールディングスと協力して世界の外食産業をスマート化する。25日、海底撈にロボットや画像認識技術を組み合わせた自動倉庫を提供したと発表。この技術を採用した海底撈のスマートレストラン北京第1号店が28日に開店する。電子部品実装システムの子会社である蘇州松下生産科技有限公司のノウハウを生かし、バックヤード業務の自動化を実現した。パナソニックと海底撈はシンガポールに合弁社を設立済み。中国のみならず世界にスマートレストランを普及させる考え。

## 大陽日酸 産業ガス インドネシアで拡充

大陽日酸はインドネシアで産業用ガスの品ぞろえを広げる。今年、現地で溶接用シールドガスの展示会を開催し、ローカル企業への提案を本格化させた。合弁相手の現地産業ガス最大手サマツールとは、圧縮天然ガス（CNG）などで協業を検討。同国3基目となる空気分離装置（ASU）も建設中で、運転開始は2019年初頭を予定する。現地事業の柱であるASUとヘリウムガスの事業基盤がある程度整ったため、大陽日酸製品の販売を含めた新たな収益力強化策を検討する。



## サウジアラムコ 浙江省の大型計画に参画

サウジアラビア国営石油のサウジアラムコは浙江省政府と同地の大型コンプレックス計画に関する覚書（MOU）を結んだ。舟山市で進む石油精製・石化計画に参画し、精製部分への出資を検討する。日量□万□の原油の長期供給契約も締結した。同社はグローバルで石精・石化一体化計画への投資を進めており、誘導品市場の拡大も期待される中国での投資を積極化している。

## 中国の1～9月のチレン生産2%増

中国の国家統計局によると1～9月のエチレン生産は前年同期比2・0%増の1377万トンだった。期中の大規模な能力増は中国海洋石油（CNOOC）とシェルの合弁プロジェクト程度で、生産能力も昨年から微増にとどまった。下期も大幅な能力増強は見込まれず、通年の伸び率は2～3%程度に落ち着くとみられる。

## 三菱ガス化学 アンモニア インドネシアで商業生産

三菱ガス化学が参画するインドネシア合弁会社「パンチャ・アマラ・ウタマ」でアンモニアの商業生産が始まった。アンモニアは新潟工場（新潟市）で生産する化学品の基幹原料の一つで、国内需要家向けに供給する外販用も底堅い需要がある。2015年に自社生産をやめて以降は全量を外部調達に頼ってきたが、プロジェクトの本格始動により自前で安定調達できる体制が整った。

## 台湾・南寶樹脂 アジアで投資拡大

台湾の接着剤・スペシャリティ大手である南寶樹脂化学工業（ナンパオ・レジンは海外投資を拡大する。不織布や軟包材などアジアで需要が拡大する素材向けに接着剤やコーティングの供給体制を強化する。不織布向け接着剤は中国で能力増強を図るほか、ベトナムにはポリウレタン（PU）コーティングの原料となるポリオールの新工場建設を検討する。成長分野に経営資源を投入し、アジアをはじめとする海外展開の拡大につなげる。

## フッ素系化学品 日系企業が中国で相次ぎ投資

中国で半導体や電子産業に不可欠なフッ素系化学品の事業投資が活発化している。特殊ガス関連では関東電化工業、セントラル硝子の大手2社が現地生産に乗り出すほか、バルカー（旧日本バルカー工業）が半導体薬液向けフッ素樹脂ライニングタンクの生産を強化中。中国では3年前からフッ素系化学品市場が活況を呈している。今後、半導体産業の前工程投資の拡大が予測されるなか、日系各社にとっては半導体製造で用いられる超高純度フッ酸の現地生産への投資が次の焦点となりそうだ。

## SABIC シリコン素材事業参入

サウジ基礎産業公社（SABIC）はシリコン事業に参入する。独メーカーのシュミットなどと合弁でサウジアラビア国内にシリコン素材の生産工場を建設する。投資総額は4億3000万米ドルを想定。同計画は、サウジ政府が掲げる経済改革計画「ビジョン2030」にもとづくもので、従来サウジでは手薄だった先端産業の育成に向けた橋頭堡としていく。



## JDI 中国で車載分野の「未来」提案 自動運転時代見据え

ジャパンディスプレイ（JDI）は、中国の次世代自動車市場向けに新たなディスプレイのコンセプトを提案する。電動化や自動化が急速に進むなか、ディスプレイにも異形状や曲面、狭額縁、高輝度などの多様な機能や意匠性が求められている。同社は低温ポリシリコン（LTPS）の技術を生かしてクラスター（メーターパネル）向けの横長曲面ディスプレイや、大型のセンターインフォメーションディスプレイ（CID）向けインセルタッチセンサー機能付ディスプレイを開発。今後、現地需要に迅速に対応するため、車載ディスプレイの設計機能を現地化することも検討していく。

## 住友電工 中国で水処理膜増産

住友電気工業は中国を中心とした旺盛な需要に対応しポリテトラフルオロエチレン（PTFE）製水処理膜の生産体制を強化する。水処理膜モジュールを生産する中山住電新材料有限公司（ZSH、広東省）で、今年に続き来年9月にも増産し、2021年までに生産能力を17年比3倍に引き上げる。これに応じて日本の膜素材の生産も強化する。来年9月をめどに既存の生産拠点に代わる新拠点を国内で整備し、中国を中心とした旺盛な需要に応える。

## タイSCG 越石化計画に集中

タイのサイアムセメントグループ（SCG）は成長投資を見直す。原燃料コストの上昇や国際経済の不確実性が高まるなど事業環境が急速に変化しているため、投資計画の採算性を再考。ベトナムの大型石油化学計画とタイ国内のナフサ分解炉増強以外の全案件で収益力を精査する。投資額の抑制や一部の計画の仕切り直しも選択肢として投融資枠を縮小する。独資で進めるベトナム石化計画に経営資源を集中する姿勢がより一層強まる。

## ソルベイ 中国・鎮江市で電子向け過酸化水素を生産開始

ソルベイは、鎮江市（江蘇省）で電子グレードの過酸化水素の生産を開始した。年産能力は2万4000トン。同地では従来から過酸化水素を生産し、香料をはじめとする機能化学品向けにグループ内で自消するほか、国内向けに外販してきた。半導体など電子工業製品向けに需要が旺盛なことから、電子グレードの生産能力を拡大した。